

日穩-bion-

# 「月の海 2018」

脚本…岩瀬晶子

## 登場人物

おおきかつお もちづき  
大木勝男・望月 豊

もちづき しずか  
望月 静

ぬまたしろうじ  
沼田昭二 ケアマネージャー

よしざわかねこ  
吉沢兼子 八百正の女将

よしざわたろう  
吉沢太郎 八百正の主人

よしざわひろき  
吉沢弘樹 ヘルパー

こばやししごろう  
小林五郎 ヘルパー

さかいきよみ  
坂井清美 看護師（弘樹の婚約者）

おおくぼまさなお  
大久保正直 大木の子分



^ 1 ^

望月家の居間。古い日本家屋で、縁側から狭いが庭が見える。中央にちやぶ台が置かれており、奥には母が寝ている部屋と台所、二階に姉弟の寝室がある。

5年前

静が居間で料理の本を読んでいる。弟の豊が仕事から帰って来る。

豊 　　ただいま

静 　　お帰り。

豊 　　あれ？お姉ちゃん来てたの？

静 　　あんたが脅かすから、お母さんの様子見に来たの。大丈夫  
　　そうで安心した。

豊 　　お母さんは？

静 　　買い物行ってる。

豊、 　　台所に行きながら

豊 　　転んだ時は僕もびっくりしたんだよ。でも思ったよりケガ  
　　が軽くて良かった。(冷蔵庫を開けて) あ、シモンのプリ  
　　ン！！食べていい？

静 　　ダメだよ、最後の一個だったんだから。

豊 　　ケチ

豊、 　　麦茶を持って出てくる。

静 　　あんたいつでも買いに行けるでしょ。

豊 　　そう思うとなかなか行かないんだよな。

静 　　でもさあ、お母さんももう年だから気をつけないとね。

豊 　　僕が傍にいるから大丈夫だよ。いざとなったらちゃんと面  
　　倒見るから。

静 　　ま、お母さんはあんたさえ傍にいてくれたら幸せだからね。

豊 なんだよそれ。

静 難しいんだよ、母と娘ってのは。

豊 仲良くしてよく。(静が見ている料理の本に気づき)あれ？

静 お姉ちゃん、料理なんかするの？

豊 まあ、何かは作れるようにならないと・・・

静 花嫁修業か。そういやお姉ちゃん、結婚式の日取り決まったの？

豊 うーん、まだなんだよね。孝太郎さんの北海道転勤がいつになるかはつきりしてからにしようと思っ

静 こっちも仕事の都合があるからさ、決まったらすぐ教えてよ。

豊 はいよ。あんたはどうなの、仕事。

静 決まったよ。

豊 何が？

静 僕の開発したサーモスタットが、次のロケットに搭載されて宇宙に行くことになりました！

豊 凄いいじゃない！おめでどう！

静 ありがとう。

豊 じゃあ、お祝いしてあげるよ孝太郎さんと。早く会いたがってるし。今週末どう？

静 うー、週末は、釣りに行く予定なんだけど。

豊 釣り？なんとかならないの？孝太郎さん、来週からまた長期出張なんだよね。

静 わかった、じゃあ釣りは来週にするよ。

豊 ホント？

静 うん、兄貴になる人に早く会いたいし。

豊 ありがとう。あ、今週末ってこの花火大会じゃない！ちようどいいから、久しぶりにみんなが集まろうよ。

静 じゃあ、お姉ちゃんの婚約祝いも兼ねてだな。

豊 ムフ

静 なんかビール飲みたくなってきた。あ、今日は僕がお姉ちゃんの好きな料理作ってあげるよ！

静　　ありがとう。

豊、台所へ。独りぽつんと取り残される静。照明が変わる。

へ 2 へ

現在

杏里の「悲しみが止まらない」のイントロが流れる。  
豊が去った台所の方を見ながらボーっとしている静。静の幼なじみ  
でケアマナージャーの昭二が庭からやってきて、その様子をじっと  
見ている。そこに、隣で八百屋を営んでる兼子がきて声をかける。

兼子(声) 静(しず)ちゃんく！

静　　(昭二に気づき) ああ、昭二君。

昭二　(静に) どうも。

兼子　(出てきて) あら、昭二君、来てたの？

昭二　(兼子に) こんにちは。

静　　(兼子に) こんにちは。

兼子　今朝方おから煮たもんだから、はい、お母さん好きでしょ  
う？(渡す)

静　　ありがとう。

兼子　懐かしいね、この曲。

静　　ああ、なんかね、お母さん、最近80年代に行っちゃって  
て、当時の曲かけると喜ぶもんだから(CDを消す)。

兼子　80年代か。静ちゃんたちがこの家に引っ越してきたこ  
ろ？

静　　そうですね、あれがちょうど30年前だから。

兼子　早いねえ。

静　　ほんと・・・母が一番幸せだった時代なんでしょうね、父  
も生きてたし・・・。あ、ねえ、友達が美味しいメロン送  
つてきてくれたんだけど、食べない？あ、八百屋さんに失  
礼か。

兼子　いいんだよ、うちは売ってるだけだから、食べる食べる。

(昭二に) ね!

昭二 うん。

静 じゃ、待ってて。

静、台所へ。

兼子 あの歌さ、メロディがノリノリだから、ついカラオケなかでもみんな盛りがあって歌っちゃうんだけどさ、歌詞が暗いのよね。

昭二 えっ?

兼子 女友達に男取られて、悲しみが止まらないって歌でしょ?

昭二 ああ・・・

兼子 恨み節だよ。

昭二 まあ、そうですね。

兼子 杏里もニコニコして歌ってたけどさあ。

昭二 あれじゃないですか、悲しい時って無理して明るく振舞おうとしたり、笑って見せたりするから。

兼子 強がってるってことか・・・。静ちゃんもああやって明るく振る舞ってるけど、本当は大変なんだろうねえ。介護のために仕事辞めて帰ってきて、結局婚約者とも駄目になっちゃったんでしょ?

昭二 ・・・・豊君の事もありましたからね。しばらくは遠距離で続いていたみたいですけど・・・

兼子 相手が北海道じゃねえ。誰かこの町でいい人探してあげようかしら。

昭二 ・・・・

静、メロンをもって台所から出てくる。

静 お待たせ、どうぞ上がって。

兼子 いただきます(一口食べる)。

昭二 いただきます。(食べて) 美味しい!!

兼子 これは静岡のクラウンメロン？

静 すっごい！ご名答！

兼子 だてに八百屋の女将さん、30年やってないよ。

昭二 さすがですね！

兼子 まあね。ねえ、静ちゃん、大丈夫？

静 ん？何が？

兼子 色々溜まつてるんじゃないの？お母さんの事。

静 ああ・・・

兼子 何かあったら言ってね。一人で抱え込んじゃうと本当に大変になるから。

静 うん。

兼子 うちも旦那のお父さんの時、大変だったもんねえ。ボケちゃった上に、徘徊してさ、一度なんて線路に入っちゃって危うく電車にひかれるところだったんだよ。

静 母も去年、腰の骨折って寝たきりになるまでは、それが心配でした。

兼子 まあ本人は動けなくて辛いだろうけどさ・・・でも、体は元気なのに頭がボケちゃってるのが一番大変なの。何するか分からないんだもの。うちのおじいちゃんも夜中に出て行っちゃうから、外から玄関のドアにつつかえ棒して、私たちはリビングの窓から出入りしてたのよ、こんななんて（やってみせる）。そしたらそれ見た人が、警察に通報しちゃってさあ。

昭二 大変だったんですね。僕たちも認知症の方の場合は、無理に体力を回復させるようなリハビリは勧めてないんですよ。リハビリは苦痛も伴うし。その代わり、ご本人が楽しく生活するためのお手伝いをしてあげて下さいって伝えてます。静ちゃんはよくやってると思うよ。

兼子 そうよお。

静 でも・・・結局はホームにお世話になることになっちゃったし・・・この家で最期、看取ってあげたかったんだけどね。

兼子 仕方ないじゃない、この家いられなくなっちゃったんだから。でも、ちょうど良かったんだよ。このままじゃ静ちゃんが参っちゃうもん

静 ……

昭二 大丈夫だよ、「ひまわり園」は新しくてきれいだし、スタッフも評判良いし。

静 うん…昭二君ありがとうね、色々。

昭二 仕事ですから。

兼子 持つべきものは、幼なじみのケアマネージャーだね。

静 ほんと。

兼子 で、お母さん、どうなの？

静 はつきりしてる時間がどんどん短くなってきてる。最近、豊はいつ帰ってくるの？ってしきりに聞いてくるんで困ってるの。

兼子 そう…もう何年になる？

静 5年。

兼子 そんなになるのか。

静 うん。実際遺体を見てないから、信じたくないんだろうね。豊がいなくなってから症状が出てきちゃたし…。

昭二 僕たちだってまだ信じられないんだから。

兼子 そうだよねえ。急に息子がいなくなっちゃうなんて、考えただけでも辛いよ。

静 最初は一生懸命説明してたんだけど、それで言い争いになっちゃうから、今は豊は外国に住んでるって言ってるの。そうそう、否定しちゃダメなのよね。

昭二 ええ、できるだけ。

静 でも今度は私がわざと会わせないようにしてると思ってるみたいで、なんで豊に会わせてくれないんだって、泣いたり怒ったりするようになったちゃって…。

昭二 そうか…。

兼子 そればかりはどうしようもないのね。

ヘルパーの弘樹と小林、看護師の清美がやってくる。

弘樹・小林・清美　こんにちは！！

清美　これ、晴江さんの櫛。昨日間違って持ってきちゃったので、返しにきたんです。すみません。

静　わざわざありがとうございます。

弘樹　母ちゃん、また油売りにきたのか。

兼子　うるさいねえ、お前は。どこの世界に油売る八百屋がいますかつての！（静に）この子、ちゃんと働いてる？

静　そりゃ、もう。弘樹君も清美ちゃんも、母の大のお気に入りの。私といると不機嫌なのに、二人が来るとニコニコして・・・

清美　静さんには甘えてるんですよ。

小林　認知症の方は、気を許せる人には病気の症状が強くなる傾向があり、暴言を吐かれたり、物盗られ妄想で泥棒と疑われるのも、身近な人が多いんです。

弘樹　よくできました。

静　病気のせいだって、頭では分かってるんだけどねえ・・・。気持ちがついていかないよね。私も散々「金返せ！」って怒鳴られて、何度も切れそうになったもん・・・。ご近所さんには「うちの嫁は泥棒だ」って言いふらされてたし・・・。病気になる前は、すごく仲良かったのにさ。

清美　認知症になる前とのギャップに皆さん戸惑うんですよ。物盗られ妄想の場合は、言われたことを否定せず、共感する態度で接してあげれば収まる人が多いみたいです。

兼子　簡単に言うけどねえ、なかなか教科書通りにはいかないんだよ、人の心は。

小林　そうですね・・・。

昭二　小林さん、この仕事慣れましたか？

小林　いや、実際現場に出てみて、日々、失敗から学んでいます。40で脱サラして介護の道に飛び込むなんて、なかなかできる事じゃありませんよ。応援してますからね。

小林 ありがとうございます。良きマスターからご指導賜りまして、わたくしパダワンは幸せ者でございます。

弘樹 僕オビワンですか！

小林 おお！分かってますねえ。さすがマスター！

弘樹 じゃあ、母ちゃんヨードだな。

兼子 ん??

静 あ、皆さんもメロン食べない？

清美 わく！いただきます！

弘樹 ありがとうございます。

小林 私は結構です。

静 メロン、お嫌いですか？

小林 いえ、メロンは好物ですが・・・「ヘルパーは訪問先で

お茶やお菓子を貰ってはいけない」とありますから。

静 あら、そうだったの？

弘樹 あ、僕はいただきます。

静 じゃ、どうぞ上がって。

弘樹 いや、今日は風もあるし、こっちの方が涼しいので。

静 うちクーラーあるのお母さんの部屋だけだからね・・・ご

めんね、昭和で止まってて。

弘樹 いやいや。

静、台所へ。

小林 いや、ホント、良い風だ。この辺は都心のモワツとする暑さが少ないから、夜は快適ですね。

清美 東京は冷房なしで寝られないですもんね。私が住んで部屋は一階だったから窓も開けられなかったし。

昭二 清美さんは、いつこっちに越してきたんですっけ？

清美 二年前です。

昭二 じゃあ、花火大会も見てるんだ？

清美 はい、去年初めて！

小林 ここの花火は有名みたいですね。

兼子　　そうよ、なんてったって歴史が長いんだから。

清美　　確か、戦前から続いているんですよね。

兼子　　うん、まあ戦時中はしばらくお休みしてたみたいだけどね。戦後また再開して、今は四代目が頑張ってるわ。

昭二　　詳しいですね。

兼子　　その四代目がこの子と中学の同級生だったの。

弘樹　　小野花火店な。

兼子　　あのメッセージ花火も四代目が考えたんだよ。

小林　　メッセージ花火？

弘樹　　打ち上げる前にアナウンスでメッセージを読み上げてくれるんですよ。

小林　　へえ、面白いですね！

兼子　　このバカ息子、去年そのメッセージ花火で、まあ恥ずかしげもなく、清美ちゃんにプロポーズしたの。「坂井清美さん！好きだあ！結婚してください！」って。

小林　　直球ですねえ！

兼子　　でしょ？100万人の前ですよ！

弘樹　　そんなに来てねえだろう。隅田川じゃねーんだから。

兼子　　それがね、この子、緊張してベロンベロンに酔っぱらって、結局自分の花火が上がった時にはトイレで吐いてたんだって。

弘樹　　母ちゃん、余計な事言うなよ！

静、　　台所からメロンを持って出てくる。

静　　お待たせ！どうぞ。

清美　　美味しそう！いただきます！

弘樹　　いただきます。

静　　どう？

清美　　美味しいです！

小林、弘樹がメロンを食べようとしてるのをじっと見る。

弘樹 (小林的視線を感じて、時計を差し) まだ時間前ですよ。そういう問題ではありません。

小林 じゃ、今の俺は、ヘルパーじゃなくて隣の弘ちゃんて事で。小林さんどうぞ。センターに報告したりしませんからね、昭二君。

昭二 うん、もちろん。

小林 いえ、私は(結構ですと意思表示)。

兼子 真面目だねえ。

静 ほんと。ねえ、何の話で盛り上がったの？

兼子 去年の花火大会。

静 ああ、あのゲロゲロ事件？

弘樹 いや、ゲロゲロって・・・静さくん

兼子 ロマンチックのかけらもないよね。

清美 でも私、突然自分の名前が呼ばれて、一人でメッセーじ聞いてたから余計に感動しました。わざと弘ちゃんいなくなっただと思っただけ。

弘樹 そう、わざとだよ、わざと。

兼子 嘘つけ。

静 ねえ、今年はここから花火見ない？久しぶりに！

昭二 いいねえ！

清美 ここから見えますか？

静 ちよつと遠いけど、ちよつと真正面に見えるんだよ。前は、よくご近所さんも家に集まってみんなでワイワイしながら見たんだよ。

兼子 そういえば、5年位前にも一度集まったよね。何でだったけ？

昭二 あ・・・

兼子 えっ？・・・あつ・・・ごめん。

静 やだ、気にしてないですよ、そんなの。

小林・清美 ？

静 あゝあ、ここから見る花火も今年で最後かあ。

昭二 引越す前で良かったね。

静 大家さんに、この家空けるのは花火大会が終わるまで待つてくださいってお願いしたの。どうしてもお母さんに、ここからの花火見せてあげたいから。

兼子 お母さん、毎年楽しみにしてるもんね。

清美 あ、でもここだとメッセージは聞こえませんかよね。

弘樹 あれ、ラジオで中継してるんだよ。

清美 え〜！

兼子 ローカルでしょ？

小林 あのこと・私も来ていいですか？

静 もちろん！大勢の方が楽しいし。

小林 ありがとうございます！じゃあ、大きなスイカ買ってきます。

兼子 それならうちで買ってね。

小林 あ、はい。

母の寝室からブザーが鳴る。

静 あ、呼んでる。(と行きかけて)

弘樹 ああ、いいですよ、俺たちが行きます。

静 ありがとうございます。

清美 じゃ、私も失礼します。ごちそうさまでした。

静 ありがとうございます。

弘樹 (清美に) 後でな。

清美 うん！駅前には7時ね。

小林 デートですか？

清美 指輪を買いに・・・

小林 いいですねえ〜

弘樹、小林、寝室の方へ去る。清美は帰る。

そこに兼子の夫・八百正の主人の太郎がやってくる。

太郎 おお、清美ちゃん。

清美 こんにちは。

太郎 またメシ食いに来てよ。

清美 はい。

太郎 じゃあな。おい、母ちゃん！ああ、やっぱりここだ。（静と昭二に）ども。俺、配達行かなきゃなんねーから、店頼むよ

兼子 ああ、ごめんごめん。今帰るよ。

太郎 全く、すぐ油売りに行っちまうんだから。

兼子 だから八百屋は油売らないって！

太郎 静ちゃん、ブロッコリーの良いのが入ったから、後で持つてくるよ。

静 いつもありがとうございます。

太郎 じゃ！

太郎、去る。

兼子 じゃね、ごちそうさまでした。

静 こちらこそ。

兼子 あ、そうだ！なんかね、最近この辺で空き巣が流行ってるんだって。気をつけてね。

静 空き巣？

兼子 うん。お年寄がいる家狙うらしいよ。

昭二 ここんとこよくあるんだよ、高齢者を狙った犯罪。

兼子 やーねー、もう。

太郎(声) 母ちゃん！

兼子 今行くよ！ーうちももう高齢者だからね、気を付けないと。じゃあね。

兼子、去る。

昭二 (利用表を出して) これ、今週の利用表。ちよつと変わっ

静 たから確認しといて。

昭二 うん。

昭二 じゃ、僕もこれで。

静 ありがとう・・・あと一週間か・・・

昭二 静ちゃん・・・本当に大丈夫？

静 ・・・・これで良かったのかな、本当に。

昭二 「ひまわり園」の事？

静 うん・・・

昭二 自宅で介護することがお互いにとってベストとは限らないんだよ。

静 ・・・・今朝ね、お母さんに言われちゃったの、あんたは私を捨てるんだね、豊だったらそんな事しないのにつて・・・それは、病気が言わせてるんだよ。気にしない方がいい。

昭二 そうは言ってもね・・・

昭二 静ちゃん、自分を責めちゃだめだよ。

静 ・・・・

昭二 何かあったらいつでも連絡して。

静 ・・・・うん。

昭二 あの・・・カラオケとか、ストレス発散になっていいみたいだよ。

静 カラオケ？随分行ってないな・・・昭二君、そういえば小学生の時、よく西城秀樹の物まねしてたよね。

昭二 え、そう？

静 うん、私ヤングマン好きだったんだよね。

昭二 へえ・・・じゃあね。

静 またね。

昭二、去る。

静、皿などを片付けて、台所へ。出てきて文机から財布を取り、母の部屋に声をかける。

静 私、ちょっとコンビニ行くけど、何か必要なものある？

弘樹(声) 大丈夫です。特にありません。

静 じゃあ、お願いします。

静、家を出ていく。玄関の閉まる音。

空き巢の勝男と正直が用心深く入って来る。

引き出しに手をかけた時、玄関の開く音がして、静が居間に入ってくる。

勝男・正直 ！！！！

勝男と正直、隠れる。静、文机からカードを出し、去る。

ホッとする勝男と正直。また物色しはじめると、玄関の戸が開き、今度は台所を通って静が入って来る。二人、隠れる。

静、棚の上の回覧板を持って出ていく。

勝男が玄関を確認して再度引き出しを開けようとする、また静が戻ってくる。

勝男、急いで台所へいき、転ぶ。ガラガラガッシャーンと大きな音。

静 えっ?!

正直はそのまま逃げる。

静、恐る恐る台所に近づき、転んで頭を打った勝男を見つめて驚く。

静 ……豊……

暗転

^ 3 ^

弘樹、昭二が居間に座っている。

そこに兼子と太郎が庭から駆け込んでくる。

兼子 ちよつとちよつと何？豊ちゃんが帰ってきたんだって？

生きてたの？どーなってんのよ！

弘樹 落ち着けよ！

兼子 落ち着けないよ！海で溺れちゃったんじゃないの？  
昭二 遺体が発見されなかったんですから、どこかで生きてる可能性はあったんですよね、

太郎 5年も前の事じゃねーか！それまでどこにいたんだよ。  
弘樹 そうだよなあ。でも似てたんだよ、本当に。

太郎 他人のそら似じゃねーのか？

兼子 あの、あれなんて言うんだっけ、この世には自分とそっくりな人が三人いるっていうの・・・ドップリベンガー？  
弘樹 なんか便秘薬みたいだな。

太郎 それならドツサリベンガーじゃねーか？

兼子 だったらタツプリベンガーでしょう。

弘樹 なんて便秘薬の命名してんだよ。

兼子 だから、ほら、何だっけ？

昭二 ドツペルゲンガー？

兼子 ああ、それぞれ。そのドツケルベンガーじゃないの？

弘樹 言えてないよ。

昭二 うーん、まあ本人に聞けば分かるんじゃないでしょうか。

兼子 そりゃそうだ。で、本人何してるのよ？

弘樹 脳震とう起こしてるみたいで、二階で休んでる。

二階から階段を下りてくる音がする。静が入ってくる。

静 ああ、みんな集まってくれたんだ！（部屋の外にいる勝男

に）豊、懐かしい顔だよ！

勝男 （部屋に入ってきて）どうも・・・

兼子 豊ちゃん！！

太郎 豊！お前、豊なのか？生きてたのか！

勝男 う、うん。

太郎 よく無事だったな。どうしてたんだ？

静 どうやらね、記憶を失くしてたみたい。

兼子 えっ? 「記憶喪失」ってやつ? 冬ソナ?? そんなドラマミ

たいなこと、本当にあるの??

静 あるんだねえ……。

昭二 あ、前にテレビで見た! 内藤やす子が脳出血で倒れて、8  
年分の記憶を失くしたって。

太郎 それだよ! 弟よ。

勝男 ……なんかもやもやする……

太郎 もやもやしてんのか? ほら、座れ!

弘樹 でも、この家に帰ってきたってことは、記憶が戻ったって

こと?

勝男 ……近くまで来たら、なんとなく入りたくなって……。

静 ちゃんとそういう記憶は残ってるんだよ。帰巢本能ってい  
うの?

弘樹 へー!

静 私、泥棒かと思っちゃったんだけどさ、まさか豊だったな  
んて。

昭二 お母さんには会わせたの?

静 うん、お母さん、ワンワン泣きながら「豊、やっと帰って  
きてくれたのね。また一緒に花火みられるのね」って、手  
握って離さないの。

兼子 そう、良かったねえ。この家でまた家族三人揃うなん  
て……

昭二 こんな事もあるんだね。

静 ホント!

弘樹 豊さんが行方不明になったのって……

昭二 熱海だよ。釣りをしてて高波にさらわれたんだ。

勝男 そうなんだあ

静 覚えてないんだよね。

太郎 記憶喪失だもんな。

昭二 誰かに助けられたのかい?

勝男 ……気づいたら病院のベッドにいた。

太郎 だけど、警察に捜索願い出してたんだろ?

静 うん。

太郎 記憶なくしてたって、年齢や風体から豊だって分かんかったのかなあ。警察も怠慢だなあ

勝男 ・・・警察、怠慢ですよ。

静 でも、まあこうして戻って来たんだから。

太郎 そうだな。

昭二 それで、今までどこにいたんだい？

勝男 ・・・まあ転々としながら・・バイトしたり・・

兼子 そう・・大変だったでしょう。お医者さん、何て？記憶戻るの？ヨン様は戻ったよ。

勝男 いや、医者にもよく分からないみたいで。

兼子 ちゃんとした病院に診てもらいなさいよ。私、知り合いのお医者さん紹介するから。竹田医院で言ってね、うちのお客さんの息子さんが・・

静 (兼子を止めて) あの、もう少し落ち着いてから。

太郎 そうだよお前、矢継ぎ早に。こいつもびっくりしてるんだからよ。

兼子 じゃ、後で連絡先あげるね。

静 ありがとう。

太郎 (勝男に) なあ、俺の事も覚えてねーのか？

勝男 うくと・・

太郎 隣で八百正やってる・・

勝男 えつと・・

太郎 ほら・・「た」

勝男 ・・・太郎・・さん？

太郎 おお！覚えてるじゃねーか！

勝男 えっ？マジで？ 太郎さん？

兼子 じゃ、私は？

勝男 花子さん？

兼子 兼子だよ。

勝男 ああ、そうか、兼子さん！

太郎 お前、今日から花子になれ！

静 徐々に思い出してくるよ。

昭二 でもなんか雰囲気が変わったね。

静 メガネしてないからかな。それに、5年も経ってるんだもん。

昭二 それもそうか。

太郎 よーし、それじゃ今日はパーツとお祝いするか！

兼子 そうだね！じゃ、うちから漬物とか適当に持ってくるわ。

(庭から去る)

静 ありがとう！

太郎 静ちゃん、便所借りるよ。俺嬉しくて小便ちびっちゃった。

弘樹 清美と小林さんもこっちに向かっているんで、迎えに行ってください。

静 あ、じゃあおつまみでも作ろうかな。

昭二 静ちゃん、手伝うよ。

静 ありがとう。

勝男も立ち上がるうとするので

昭二 いいよ、ここに座ってて、もやもやするんだろう？

勝男 ああ・・・

静、昭二、台所へ。

庭から正直が様子を見にくる。

正直 (庭から) アニキ！

勝男 (庭に降りて行って片隅で) あっ！マサ！！お前、なんだよ！一人で逃げやがってこの野郎！

正直 しようがないじゃないですか、逃げるしか・・・。捕まってるかと思ったら、一体どうなってるんですか？

勝男 なんかな、俺の事、このうちの息子と勘違いしてるみてーなんだ。

正直 どういうことですか？

勝男 行方不明の息子にそっくりらしい。

正直 ええ！！

勝男 だから記憶喪失って事にしてる。

正直 記憶喪失??それ信じてるんですか?

勝男 信じてるんだな、これが。よっぽど似てんだろな。

正直 似てるって言ったって・・・

勝男 それより、俺のアパートどうだ?

正直 借金取りが二人張ってました。

勝男 そうか・・・

正直 どうします?

勝男 実はな、さっき電話で話してるの聞いたんだけど、三日後

にこの大家が立ち退き料持ってくるみてーなんだ。

正直 いくらですか?

勝男 100万は固そうだ。

正直 マジっすか!!

勝男 その金いたたくまで、ここんちの息子になりすますからよ。

正直 じゃあ、ついでに金目のものも探しといて下さいね。

勝男 当たり前だろ。

正直 じゃ。

正直、去る。太郎、居間に戻ってきて

勝男 (太郎に) あの、便所は?

太郎 玄関の横。

勝男 ども。

太郎 一人で大丈夫か?

勝男 ……はい。

太郎 必ず帰って来いよ。

勝男、トイレへ。

太郎 静ちゃん、寿司取ろう!俺のおごりだ!

静 ああ、ありがとう。

太郎 末広寿司の電話番号何番だっけ？

静 (文机の) 横に書いてある。

太郎、寿司の出前を注文する。

静、ちゃぶ台の上で乾物をお皿にだしていると、玄関からビールを  
持った弘樹と清美が来る。

清美 こんにちは

静 いらっしやい！

清美 お邪魔します。静さん、良かったですね、弟さん無事で。

お母さん、喜んでるでしょう？

静 それはもう。

弘樹 これ、ビールと日本酒買ってきました。紙皿とコップも。

静 ありがとう。

昭二(声) (台所から) 静ちゃん、お湯沸いたよ！

静 はーい。

清美 あ、これ私やっておきます。

静 ありがとう。(と台所へ)

弘樹 あれ？豊さんは？

太郎 便所行った、一人で。

弘樹 当たり前だろう。

玄関から小林が入って来る。足に添え木、片手を包帯で胴体に縛り  
付けて、動かないようにしている。

小林 こんにちは。

太郎 おい、どうしたんだ？！事故か？

小林 ああ、気にしないでください。シュミレーションですから。

太郎 シュミ？

小林 お年寄りや半身麻痺の患者さんと同じ状態を体験して  
るんです。

弘樹 研修の一環でやるんだよ。手足が自由に動かないようにして、重りをつけて。介護される側の気持ちを知らするためにさ。

太郎 へ〜

弘樹 おむつもしてみるんだよ。

太郎 おむつ？

清美 それは私も看護学校でやりましたよ。

弘樹 実際おむつにしようとしても、なかなかできねーんだよな。

小林 そうなんですよ。人前でなんてとてもとても。

清美 車椅子のお年寄りに、「おむつ履いてるからそこでしちゃ

っていいよ」なんて言えなくなりますよ。

小林 はい、頭では分かっているつもりでいても、実際相手の立場に立ってみて初めて分かる事が沢山ありますね。

太郎 なるほどな。

清美 でも小林さん、もう研修終わったんじゃないですか？

小林 研修だけではお年寄りの気持ちを完全に理解したとまで

は言えなかったのです、プライベートの時間にはこの状態で生活するようにしているんです。

太郎 まじめだなあ。

弘樹 熱心なのはいいですけど、こちらのご家族にご迷惑かけることのないようお願いしますよ。

小林 はい、マスター。

勝男、トイレから戻って来る。

弘樹 ああ豊さん、こちら坂井清美さん、俺の婚約者です。

清美 ……！（驚いている）

勝男 ああ、どうも……俺、初めてかな？

弘樹 はい、清美は2年前にここに来たので、豊さんとは会ってません。

勝男 あ、じゃあ、初めまして。

清美 ……初めまして。

清美、勝男と目を合わせないようにする。

勝男 (小林の姿に驚く)!!

太郎 シュミなんだってよ。

勝男 シュミ?

弘樹 あ、シュミレーションです。

小林 どうも、改めまして小林です。お母さん、喜んでましたねえ。いやあ、感動しました!

静、昭二が台所から出てきて

静 ねえ、狭いけど、今日はお母さんの部屋で乾杯しよう!

太郎 そうだな! 豊が帰って来たのに、晴江さん一人にしたらかわいそうだ。

静、台所へ。

正直が、そろそろと帰ってきて、庭で探し物をしている。

太郎 あれ? 誰だ! お前!!

正直 えっ? あっ・・・あの・・・

勝男 ああ・・・俺の知り合いです。

太郎 えっ? 豊の?

勝男 一緒にここに来たんですよ。

太郎 ってことは、豊が記憶失くしてから友達か。

正直 ええ・・・まあ・・・

太郎 そうかあ、じゃあ、あんたも一緒に飲もう! 豊の事、色々聞きたいしな!

正直 ええっ!! ああ・・・はい、じゃあ。

太郎 名前、何て言うんだ?

正直 えっ? ああえっど・・・(太郎の持つてる「松竹梅」の一升瓶を見て) まったけ・・・うめ・・・

太郎 えっ?

勝男 …… 次郎、梅次郎。

太郎 梅次郎か！

正直 はい。

勝男 行くぞ、梅次郎。

正直 はあ……

太郎 松竹梅次郎か。めでたい名前だな。松竹梅だ！

などと言いながら、太郎、小林、勝男、正直、昭二、奥の部屋へ。  
玄関のチャイムが鳴る。

静（声） ごめん、誰か出てくれる？

昭二 はいよ！

居間に残っている弘樹と清美。

清美 （弘樹に）ねえ、豊さんて、ずっとここに住んでたの？

弘樹 そうだよ、五年前に行方不明になるまではね。

清美 …… 何やってた人？

弘樹 エンジンアっていうのかな。空調機作ってるメーカーに勤めてたんだ。

清美 そうなんだ……

弘樹 頭が良くて、会社でも出世コースだったみたいよ。

清美 へえ……

弘樹 行こう。

清美 …… うん。

弘樹と清美は奥の部屋へ。

玄関の方から昭二、台所から静が居間に来る。

静 ああ、誰だった？

昭二 警官

静 警官？

昭二 昨日、この近所で二軒も空き巣被害があったんだって。  
静 空き巣？・・・それで？

昭二 目撃情報集めてるんだって。

静 そう。

昭二 くれぐれもちゃんと戸締りして気を付けるようになってさ。

静 ありがとう。

太郎（声）（奥の部屋から）静ちゃん！乾杯するよ！

静 はーい！

昭二 行こう

昭二、奥へ。静、棚の方をチラッと見て、奥へ。

へ 4 へ

その日の夜遅く・宴会で一通り盛り上がった後。

小林、弘樹、清美が奥の部屋から出てくる。

小林 いや、すっかりご馳走になってしまいました。ありがとう

うございました。では、お休みなさい！

弘樹 お邪魔しました。

静（声） お気をつけて。

小林 （よろけて）おととと・・・

弘樹 小林さん、酔っ払った時くらい、それ取ったらどうです

か？

小林 いえ、いかなる時も、私はお年寄りの心に寄り添っていた  
いのです！

弘樹 気を付けてくださいよ。

小林 合点承知の助！（玄関の方へ）

弘樹 清美？気分悪いの？ずっと元気なかったけど。

清美 ううん、大丈夫だよ。

小林（声） マスター！もう一軒行きますよ！

清美 小林さん、もう帰りますよ。

小林、弘樹、清美、玄関から去る。

太郎、兼子、静、昭二が奥の部屋から出て来る。

太郎(声) 豊、お前もう少しお母さんの傍にいてやれ。

昭二 あゝ、飲み過ぎました。

太郎 しかし、記憶喪失つてのは、性格まで変えちまうもんなのかなあ。豊の奴、昔はちよつと真面目すぎるところがあったけどよ、随分くだけて、別人みてーだ。

静 認知症も一種の記憶喪失でしょ？お母さんがまるで別人だもん。

太郎 そういやうちの親父もそうだったな。若い頃はおっぱいのでかいお姉ちゃんが好きだったけど、ボケてからはケツのでかい姉ちゃんばかり追いかけてた。

兼子 それはただのエロじじいだろ。しかも、お母さん、嬉しそうだったね。

静 うん、やつと笑顔が見られた。

兼子 良かったね。あとは豊ちゃんの記憶が戻れば言う事なしだ！

静 うん。

兼子 ああ、そうだ。これ私の知り合いのお医者さんの連絡先、相談してみなよ。

静 ありがとう。

兼子 じゃ、お休み〜。

静 お休みなさい。

太郎 じゃな！お風呂入れよ！歯磨けよ！バンバンバンバン、また明日〜！

兼子、太郎、去る。

昭二 ……懐かしいね。あ、悪いけど水一杯貰える？

静 うん。(台所へ)

勝男が奥から出てくる。

静 (水を置いて) はい。

昭二 ありがとう。

静、二階の部屋へ。

勝男 ねえ、あんた・・・えつと・・・

昭二 昭二。

勝男 昭二さんは、何のマネできんの？

昭二 マネ？

勝男 物まね。

昭二 西城秀樹が得意だったけど・・・

勝男 へっ、やってみてよ。

昭二 えっ？ここで？

勝男 うん、見たい。だめ？

昭二 あく・・・じゃあ・・・

昭二、やる。

勝男 うわっ、懐かしいなあ・・・でもそれで仕事になってんの？

昭二 仕事？

勝男 物まねの人でしょ？

昭二 誰が？

勝男 昭二さん。

昭二 えっ？僕？

勝男 あれっ？エアマネとか言ってなかった？

昭二 いや・・・僕はケアマネだよ。ケアマネージャー。

勝男 ああくケアマネージャー・・・って何？

昭二 介護が必要な人が適切な介護サービスを受けられるよう

に相談に乗ったり、介護内容を考えたりする人。

勝男 なんだ、エアあややみたいな物真似する人だと思ってた。

昭二 じゃ、何で今、西城秀樹の真似したの？  
昭二 いや、豊君が見たいて言うから・・・  
勝男 昭二さん、良い人なんだね。  
昭二 ・・・・ありがとう。  
勝男 昭二さんさ、あの人・・・  
昭二 あ、静ちゃんの事？  
勝男 うん、俺、なんて呼んでた？  
昭二 お姉ちゃん・・・かな。  
勝男 ・・・・お姉ちゃん・・・昭二さん、お姉ちゃんの何なの？  
昭二 静ちゃんは僕のクライアントだけど、元々同級生なんだ。  
勝男 それだけ？  
昭二 ・・・・うん。  
勝男 付き合ってるんじゃないんだ。  
昭二 違うよ。  
勝男 まあ、彼女にするにはちよっと暗いよな。  
昭二 そんなことないよ！静ちゃんは、優しいし笑顔もかわい  
勝男 んだから。  
勝男 気があるんだ？  
昭二 えっ？いやいやいやいやいや。  
勝男 分かりやすいねえ。昭二さん、結婚してるの？  
昭二 バツイチ。  
勝男 じゃあ別に問題ないじゃん。  
昭二 いや、僕なんかとでもとも・・・静ちゃんには、北海道  
勝男 にならずと想ってる人がいるんだよ。  
勝男 そんな事関係ないよ。好きならどーんと当たってみなきゃ。  
昭二 俺、お兄ちゃんと呼んであげよ！  
昭二 ええー！参ったなあ。豊くん、こんなぶっちゃけた所があ  
勝男 ったんだねえ。  
勝男 ・・・・俺の事、よく知ってたの？  
昭二 うん、中学の時は同じ書道教室に通ってたし。  
勝男 書道教室・・・  
昭二 社会人になってからも、青年会議所のメンバーとして一緒

に活動してたんだよ。

勝男　へえ・・・俺、変わった？

昭二　そうだな・・・雰囲気かね・・・

勝男　そうか・・・

昭二　いやいや、悩まないで。辛いだろうけど、時間をかければきっと思い出してくるよ、まだ若いんだし。

勝男　ああ・・・

昭二　僕でできることなら何でもするからね、遠慮なく言って。

勝男　うん・・・

静、アルバム、文集、シャツ、メガネを持って戻って来る。

静　麦茶飲む？

勝男　ああ。

昭二　僕はもう失礼するよ。嬉しくてつい飲み過ぎちゃった。

静　大丈夫？

昭二　うん、じゃ、また。

静　おやすみなさい。

昭二、玄関から去る。

静　（アルバムと卒業文集を出して）これ、あんたの小学校の卒業文集と家族のアルバム、見てみて。

静は台所に麦茶を取りに行き、帰ってくる。

静　（麦茶を出して）はい。（アルバムを見て）懐かしいなあ、

栃木の温泉に行った時のだ。

勝男　（写真を見て）真面目そうだな、俺・・・

勝男、文集をパラパラめくってしおりが挟んであるところを開く。

勝男

「僕の夢」 6年1組 望月 豊「僕は将来、宇宙に行く  
ロケットを作って、いずれはそのロケットを月に送りたい  
と思っています。豊の海にロケットを着陸させることが夢  
です。」(鼻で笑って)何これ?こうやってさあ、子供に将  
来の夢とか書かせるの、ホント意味ねーよな。後々笑い話  
のネタにされるだけなんだからさ。

静

でも半分は実現させた。

勝男

へっ?

静

ロケット。

勝男

俺、ロケット作ったの?

静

正確にはその一部だけだね。豊が開発した部品がJAXA  
に認められて、ちょうど5年前からH2Bロケットに搭載  
されてるんだよ。

勝男

なんかすげーな、俺……。この豊の海ってのは?

静

(月を見上げて)豊かの海は、あのうさぎさんの左耳の部  
分。

勝男

えっ?月に海があんのかよ?

静

実際に水があるわけじゃないんだけどね、昔の人は海があ  
るって信じてて、それぞれに名前がついてるの。ちなみに  
静かの海は、うさぎさんの顔の部分で、その下の首のあた  
りが晴れの海……。お母さんの名前が晴江だから、あれは  
お母さんの海。

勝男

へっ

静

初めて人を乗せて月に行ったアポロ11号が着陸したの  
が、静かの海なんだよ。これ私の唯一の自慢。

勝男

それで豊……。俺は、豊の海にもロケットを送りたかった  
んだ。

静

ただの負けず嫌いな子だと思ってたけど、自分の夢叶える  
ためにコツコツ勉強して……。エンジニアになってからも  
諦めないで、認められてさ、ロケット作ってる会社への転  
職も決まってたんだよ。

勝男

。。。。

静 実の弟ながら、偉いなあ〜っていつつも思ってた。みんなからも愛されて・・・お母さんの自慢の息子。

勝男 へえ・・・親父は？

静 私たちが小学生の時に病気で死んじゃったの。それからお母さん、保険の外交員しながら女手一つで私たちの事育て・・・。

勝男 へえ・・・

静 お母さん、あなたの顔見て、本当に喜んでた。あんたがいなくなつてから、全然笑わなくなつてたんだよ。

勝男 ・・・・

ブザーが鳴る。

静 噂をすればだ。(立ち上がった) あ、そうだ(台所からシャツとメガネを持ってきて) これ、シャツとメガネがあった。

勝男 ああ・・・(メガネをかける)・・・ちよつと度が変わつたかも・・・(と外す)

静 そうか。(シャツを出して) じゃあ、はい。

勝男 これ・・・俺が着てたの？オヤジさんじゃなくて？

静 うん、処分しようかと思つてただけど、お母さんが嫌がつて。しなくて良かった。

勝男 ・・・・良かったねえ・・・これ、ズボンにインしてた？

静 してたね。

勝男 ・・・・あつそ。

ブザーが鳴る。

静 はいはい。(行くこうとして振り返り)・・・豊・・・

勝男 ん？

静 帰つて来てくれて・・・ありがとうね。(奥へ去る)

勝男 ・・・・

勝男がアルバムを見ていると、正直が起きて来る。

正直 あれ？みんな帰っちゃったんすか？

勝男 お前、まだいたのか？

正直 いつの間にか、風呂場で寝てました。

勝男 バカ野郎、人の家で酔いつぶれてどうすんだ。

正直 すみません。(置いてあった麦茶を飲む)

勝男 お前、何で戻ってきたんだよ。

正直 あ、部屋の鍵失くしたんだった！ここじゃねーかと思って、それで戻ってきたんですよ。

勝男 バカ野郎。

正直 (庭を探しながら) しかしアニキ、よくもまあ次から次へと話作りますよね。俺、いつボロが出るかと思ってびくびくしっぱなしでしたよ。俺、嘘苦手なんですよねえ。なんてったって、名前が「しろうじき」って書いて「まさなお」ですから。すぐばれちゃう。親にはめられました。

勝男 お前、この仕事向いてねえんだよ。

正直 そうっすかね。あつ！ありました！これで帰れる。

勝男 ……お前さ、家どこだっけ？

正直 記憶喪失の芝居の続きですか？アニキのアパートの二軒となりの

勝男 実家だよ。

正直 ああ、宇都宮です。

勝男 どこだそれ。

正直 栃木県の県庁所在地ですよ。

勝男 ああ、納豆が有名な所か。

正直 それは茨城！

勝男 こんにちはが有名な所か。

正直 それは群馬！その間ですよ。なんで飛び越えちゃうんですか！栃木にだって有名なものいっぱいあるんですよ！餃子でしょ、いちごでしょ、あと……かんぴょう！アニキ

は？

勝男 俺は富山だ。

正直 富山？どこにあるんですか？

勝男 ・・・・日本海のでっばってるとこの横。

正直 へえ〜

勝男 家族居るのか？

正直 まあ一応いますよ。随分会ってないですけど。アニキは？

勝男、自分のシャツをめくり、背中を見せる。

正直 うわっ！どうしたんすか？それ・・・

勝男 お袋の再婚相手にやられた根性焼きの後だよ。アル中で死  
んじまったらしいけどな。

正直 お袋さんは？

勝男 まだ生きてるよ。確か今年で70だ。

正直 帰ってるんですか？

勝男 今さら帰れねーよ、帰りたくもねーし。

正直 自分もつすね・・・

勝男 お前、子供のころの夢とかあったか？

正直 プロ野球選手つすね。アニキは？

勝男 小学校の時の俺の夢は、なるべく家から遠く離れた所に行  
く事だった・・・同じ顔してても随分違う人生だなあ。

正直 この息子ですか？

勝男 ああ・・・このやつら、人を疑うことを知らねーんだ。  
正直 アニキ、まさか、本当に息子になりますます気じゃないでし  
ようね？

勝男 あわよくば、ここんちの財産半分貰えるかもしんねーぞ。  
正直 何言ってるんですか、いつまでもボロが出ないわけないでし  
よ？

勝男 分かってるよ。

正直 頼みますよ、ホントに。

勝男 早く行け。

正直　　そういや、アニキの携帯が繋がらないんですけど。

勝男　　ア・パートに忘れてきた。

正直　　連絡取れねーじゃねえですか。

勝男　　お前、取って来いよ。

正直　　借金取り張ってるじゃないですか！

勝男　　人の家に忍び込むのが仕事だろう？

正直　　も〜！

勝男　　早く行けよ！

正直　　分かりました。

正直、庭から去る。

勝男、豊のシャツをじっと見てから着てみる。眼鏡もかける。  
照明が変わる。

^ 5 ^

5年前・花火大会の日

太郎、弘樹、兼子、昭二が出てくる。

太郎　　豊、お前の作ったサーモンがロケットに乗るんだって？お  
めでとう！

弘樹　　サーモンでなんだよ。サーモだよ、サーモスタート！ロケ  
ットに鮭乗せてどーすんだ。ねえ、豊さん。

豊　　うん、サーモスタートね。

弘樹　　あ、スタートね。

太郎　　なんなんだ、そのサーモンちやらつてのは。

豊　　温度調整するための装置で、僕が開発に携わったのは密閉  
構造または非密閉構造のデバイスで利用できるスナック  
アクション型バイメタルを採用したSPSTサーモスタ  
ットなんだ。

太郎　　・・・なるほどなく！

弘樹　　絶対分かってねーだろう。

太郎　　まあ、何にしてもそれが宇宙に行くんだからよ、すげーじ

豊 やねえか。一つ夢が叶ったな。  
うん。

昭二 そうか、豊君、小さい頃からずっとロケット作りに携わり  
たいって言ってたもんな。

太郎 次は月だな。

豊 そうだね。

兼子が台所から出てくる。

兼子 ねえ、花火って何時からだっけ？

豊 7時からだよ。

兼子 あらやだ、静ちゃん達、間に合うかな。

昭二 どこに行ったんですか？

兼子 静ちゃんの婚約者とお母さんとで式場探しに行ったのよ。

昭二 ああ、そうか・・・。

豊 さつき連絡があつたから、もうすぐ帰ってくるよ。

弘樹 何だっけ、相手の名前。

豊 荒川孝太郎さん。

弘樹 あれ？じゃ、静さん結婚したら荒川静だ。

太郎 イナババアーだな。

弘樹 イナバウアーだよ。

静(声) ただいま、遅くなつてごめん！

豊 おかえり！

兼子 おお、静ちゃんの婚約者見に行こう！

太郎 俺も

弘樹 俺も

昭二、ちよつと躊躇して、玄関へ。

暗転

^ 6 ^

翌日の朝。清美が訪ねてくる。

清美 あのこと、おはようございます。

勝男 …… ああ、あんた看護師の……

清美 坂井清美です。

勝男 そうそう、清美ちゃん。おはよう。

清美 静さんは？

勝男 買い物に出かけたっぽい。

清美 そうですか。

勝男 あがったら？

清美 はい。

清美、居間へ上がる。弘樹が庭から歩いて来て、声をかけようとするが、様子がおかしいので隠れて立ち聞きする。

清美 あの……私の事、分かりますか？

勝男 えっ？

清美 ……覚えてないですか？

勝男 ……いや……

清美 ……だったら良いです。すみません、変な事聞いて。(帰ろうとする)

勝男 ……あれ？……あつ、あく！ランちゃんだ！AVに出てた、潮風ランちゃんだよね?! 題名なんだっけ? あ、「ミッシェン チンポッシブル」! あと「ジャパネットハダカ」!

清美 ……

勝男 俺がADのバイトしてた時だから、もう10年くらい前?

懐かし……

清美が振り返る。

勝男 !!

間

清美 ……これ（と封筒を出す）

勝男 ……

清美 ……これで黙っていただけませんか？…私、今度

結婚するんです。弘ちゃん達に知られたら、結婚できなくなっちゃう…お願いします。

勝男 ……

清美 これしか用意できなかったんですけど…必要なまた

どこかで借りてきます。だからお願いします！

勝男 ……

清美 ……お願いします。

勝男 ……

清美 ……あなた、豊さんじゃないですよね。

勝男 ……

清美 あなたは私が知ってる大木って人で、豊さんじゃないですよね。

勝男 ……

清美 ……誰にも言いませんから…

勝男 ……あんた、俺を脅してるのか。

玄関の開く音。急いで封筒をポケットにしまう勝男。

静（声） ただいま。

勝男 おかえり！

静が紙袋を持って入ってくる。

静 あれ？清美ちゃん、おはよう！

清美 あ、おはようございます！

静 今日、検診の日だっけ？

清美 いえ、これ昨日のお礼にと思って、佃煮（と手土産を渡す）。

静 いいのに、わざわざありがとう。あ、プリン食べる？

清美 プリン？

静 シモンで買ってきたの。

清美 ああ、いつも行列してるお店。でも今日はもう行かなきゃならないので。

静 じゃ、後で弘樹君が来たら渡しとく。

清美 ありがとうございます。それじゃ、失礼します。

静 ありがとうございます。

清美 いえ・・・豊さん、また。

勝男 ……

清美、去る。

静、プリンを勝男の前に置いて

静 はい。このプリン、なかなか手に入らないんだよ、人気があつて。

勝男 ふくん

プリンを次々と並べながら

静 豊が行方不明になる前、私このプリンあげなかったんだよね。たった200円のプリン、こんな事ならあげれば良かったってすごく後悔したの。あれ以来、このお店に入れなくなっちゃってさ・・・豊が帰ってきたらいっぱい食べさせてあげようって思ってたの。だから、これぜーんぶ食べていいよ。

勝男 (ズラーつと並ぶプリンを見ながら)こんなには食べねえけど・・・

静 爆買いしちゃった、5年間の反動で・・・あんたが食べる姿見たくてさ。

勝男 ……(プリンを一つ取って食べる)うまい。

嬉しそうに見つめる静。庭から小林が来る。

小林 おはようございます！

静 ああ、おはようございます。

小林 昨日はありがとうございます。

静 いえ、早いですね。まだ30分もありますけど。

小林 「何事も 早め早めに すぐ行動」お気になさらずに。今日から独り立ちですから！お庭で準備体操させていただいても宜しいでしょうか？

静 どうぞ。

小林 ありがとうございます。お母さん、いかがですか？

静 朝から機嫌いいですよ。

小林 そうですかあ。やっぱり息子さんに再会できて、喜びもひとしおでしょうね。

静 ええ。あ、小林さん、プリン・・・食べませんね？

小林 お気持ちだけタップリンいただきます。

静 タップリン・・・

ラジオ体操を始める小林。静は台所へプリンを置きに行く。

勝男 それ、毎日やってんの？

小林 はい、介護は体力も使いますし、お年寄りを持ち上げたりするので足腰痛めやすいんですよ。介護する方が介護されるようになったらシャレになりませんから、きちんと準備体操しないとね。

勝男 あんた、サラリーマンだったんだろ？何でわざわざ辞めてこんな大変な仕事しようと思ったの？

小林 サラリーマン時代は朝から晩まで、成績上げてボーナス増やす事ばかり考えてました。でもそのお陰で体壊して、嫁にも逃げられて・・・。入院先の病院で考えたんです、今までの自分の人生何だったんだって・・・。それで、思い

切って会社辞めて介護士の資格を取りました。

勝男 へえ。

小林 正直、仕事は大変な事も多いですけど、人様のお役に立てて、笑顔を貰えるんです。これは何にも代えがたいですよ。笑顔は笑顔をもたらします。さあ、今日も笑顔でご挨拶！

勝男 (満面の笑顔で)おはようございます!!はい!(と促す)えっ・・・

小林 おはようございます!はい!

勝男 ……おはようございます・・・

小林 もっと笑顔で!おはようございます!はい!

勝男 おはようございます!

小林 笑顔、素敵ですね。桐谷健太に似てるって言われませんか?

勝男 言われません。俺、シヨンベン。

小林 それも笑顔で、はい!

勝男 (笑顔で)俺、シヨンベン!

小林 いいですねえ。いってらっしゃーい!!

昭二がやつてくる。

小林 おはようございます!!

昭二 おはようございます。

小林 (台所の静に) 沼田さんがおいでですよ!

静 (台所から出てきて) はい、ああ、昭二君、おはよう。

昭二 おはよう。これ、昨日読みたいって言った本。それから、ネットで記憶喪失について色々調べて印刷してきたよ。参考になるかと思って。

静 ありがとう、わざわざ。

昭二 やっぱりお医者さんにもう一度診てもらった方が良いでしょう。

静 そうだよねえ。

ピーツというやかんのお湯が沸いた音。

静 ああ、ごめん。(台所へ) 昭二君、プリン食べてかない？  
今、紅茶入れるから。

昭二 ありがとう。

小林 (昭二をじっと見る)

昭二 (その視線を感じて) ああ、今日はオフなんで。

小林 ああ、そうですね。タップリン召し上がれ。

昭二 タップリン・・・

勝男がトイレから帰ってくる。

昭二 ああ、おはよう！

勝男 どうも。

昭二 そういえば豊くん、昨日の夜、僕がやった西城秀樹の物真似見て、「懐かしい」って言ってたよね？

勝男 ああ、子供の頃、よく歌ったよな。

昭二 という事は、その頃の記憶は残ってるの？

勝男 えっ？・・・あ・・・いや・・・うん、音とか匂いとか、感覚的な記憶は残ってるみたいなんだ・・・

昭二 へえ、そういうもんか。まあ、認知症の症状も説明できない事ばかりだもんなあ。人体の不思議だね。

勝男 不思議だよなあ。あ、俺、ちよつとタバコ買ってくるわ。

昭二 えっタバコ吸ったっけ？

勝男 あ、いや・・・人体の不思議だよな。

昭二 はあ・・・

勝男、出かける。

家の電話が鳴る。静が出てきて取る。

静 もしもし・・・

奥の部屋からブザーが鳴る。

静 あ・・・

昭二 小林さん！

小林 あ、私が行きます！

静 すみません。

小林、奥へ。

静 (電話に戻り)失礼しました、望月ですが・・・えっ・・・

荒川？孝太郎さん？・・・久しぶり！・・・うん、まあボチボチかな。そっちは？帰って来てるの？・・・へえ、そうなんだ・・・おめでとう！私の知ってる人？・・・美紀ちゃん・・・そうか、良かったね・・・連絡ありがとう・・・うん、じゃあね。お幸せに・・・

静、電話を置いて、暫くボー然としている。

昭二・・・孝太郎さん？

静 ああ、うん・・・(台所で紅茶とプリンを用意をしながら)今度結婚するらしい、会社の後輩と・・・(出てきて)人から聞く前に、自分から伝えたかったんだって。

昭二・・・そうか。

静 ねえ、このプリン知ってる？

昭二 ああ、シモンのだよね。

静 これ、美味しいよね。いつも行列できてるから、朝8時に行って、2時間も並んだの。そしたら一番乗りだったから20個も買ってきちゃった！私5年ぶりに・・・。

間

昭二・・・

静 (耐えられなくなり)お砂糖取って来る(と台所に行って、

泣く)

昭二  
・・・

何かしてあげたいが、できない昭二。

暗転

へ 7 へ

翌日 豊のシャツをインにして着て、メガネをかけている勝男が居間にいる。

正直が来る。

正直 まいど

勝男 三河屋か、お前は！

正直 (勝男の恰好を見て笑いをこらえながら) アニキ・・・  
何ですかその恰好。

勝男 ・・・・俺のは洗濯中なんだよ。お前、随分堂々と入ってくるな。

正直 今さらこそそしてどうするんですか？むしろ怪しまれますよ。

勝男 今、姉貴出かけてるから、上がれよ。

正直 なんか本当に兄弟みたいになってますね。あ、これ(と携帯を渡す)

勝男 おお、サンキュー。

正直 で、なんか金目の物見つかりましたか？

勝男 まだ。

正直 こんな無防備状態なのに？！

勝男 バカ野郎！今何か取ったら、すぐにばれて居られなくなるだろう？

正直 明日立退料くすねたら、すぐずらかるんでしょ？警察嗅ぎまわってますよ。

勝男 ・・・・

正直 アニキ？どうしたんすか？

勝男 ……どうもしねーよ。

正直 おかしいですよ！！

そこに弘樹がやってくる。

弘樹 こんにちは、梅次郎さん。

正直 ああ、どうも。じゃ、俺はこれで。豊さん、また、明日。

正直、去る。

弘樹 あの・・・清美の事で話があるんですが・・・

勝男 俺に？

弘樹 あなた、清美と知り合いだったんじゃないやありませんか？

勝男 いや・・・

弘樹 本当ですか？

勝男 知らないよ。

弘樹 清美、俺に何か隠してるみたいなんですよ。あいつの事はすべて知っておきたいんです。何か知ってる事があるなら教えてください。

勝男 ……

弘樹 (金が入った封筒を出す) これ・・・

勝男 (封筒を受け取り中身を確認する) ……弘樹君さ、何聞いても驚かねー自信あるか？

弘樹 ……はい。

勝男 ……じゃあ、教えてやるよ・・・実はな、清美ちゃん・・・

弘樹 ……

勝男 ……ツラハンターなんだって。

弘樹 へ？

勝男 誰がツラで、誰が植毛なのか、一目でわかるらしい。

弘樹 ……はあ・・・

勝男 アデランス、アートネイチャー、リーブ21・・・これは育毛か・・・。お前も年取ったら気を付ける・・・なーん

てな、冗談だよ。この間会ったばかりなんだから、何も知らないよ。ほれっ（と金を返す）

弘樹 ……そうですか。よかった。

勝男 えっ？お前、ヅラか？

弘樹 いえ違いますよ。……あなたが頼みをきいてくれて。

勝男 頼み？

弘樹 清美のですよ、昔AVに出たこと言わないでくれている。

勝男 えっ？

弘樹 俺、前から知ってたんです。「ミッション・チンポッシブル」、見た事あるし。

勝男 ええ？

弘樹 あいつの父親、借金残して女と逃げちゃったらしくて、必死に親の借金返しながら看護学校に通ったって言ってました。若いうちから苦労したんです、きつと。どんな過去があるうと、俺はあいつが好きです。俺が、あいつを守ってやりたいんです。俺、ずっと知らないふりで通すつもりです、だからあなたも…忘れてください。

勝男 ……ああ

弘樹 ありがとうございます。

弘樹、改めて勝男を見て。

弘樹 ……ところで、あなたは一体、どこの誰なんですか？

静が玄関から帰ってくる。

静（声） ただいま！

勝男 おかえり〜！

弘樹 おかえりなさい。

静 ああ、弘樹君、今日は早いね。

弘樹 はい、小林さんの影響で。

ブザーが鳴る。

弘樹 あ、早速お呼びですね。

静 ありがとうございます。

弘樹 豊さん、また後で。

勝男 ……

弘樹、奥の部屋へ。

静 (勝男に) 何も変わった事なかった？

勝男 ……さつき、お母さんに呼ばれた。

静 行ったの？

勝男 ああ…

静 何だった？

勝男 ずっと…手握られてた。

静 ……そう。

勝男の携帯が鳴る。勝男、電話に出るため、玄関から外へ出ていく。

静 弘樹君、まだプリンあるけど食べる？

弘樹(声) あく、まだあるんですか。俺はもういいです、食いすぎ  
て、プリンのお化けに襲われる夢見てうなされたんで。

静 そっかあ。

兼子が来る。

兼子 こんにちは！静ちゃん、これ回覧板。

静 ありがとうございます。

兼子 豊ちゃん、その後どう？

静 ちよつとずつ戻ってきてるような気がする。

弘樹が母の部屋から出てきて台所へ

弘樹 母ちゃん、また油売りに来たのか。

兼子 うるさいね。(静かに) ねえ、私が紹介した病院には行つたの？

静 まだ・・・先に色々手続きしなきゃいけないし。

兼子 ああ、それもそうだね。ちゃんとした仕事も探さなきゃね。  
静 そうですねえ。

台所に布巾を取りに行つてた弘樹が出てくる。

そこに昭二が血相変えて走ってくる。

昭二 静ちゃん!!

静 ?

昭二 豊君は?

静 電話しに・・・。

兼子 どうしたの?

昭二 今、長寿庵にいたら刑事がきて、(写メを見せて) この似顔絵見せられたんだ。これ豊君にそっくりだと思わない?

兼子が昭二のガラ携を取って、よく見る。

弘樹 誰なんですか?

昭二 空き巣の犯人だって。

兼子 よく分かんないなあ。

清美が来る。

清美 こんにちは!

昭二 (清美に) ねえ、これ豊君に似てると思わない?

清美 ・ ・ ・

昭二 空き巣の犯人らしいんだけどさ。

清美 空き巣？

昭二 名前は大木勝男って言った。

清美 ・・・・

兼子 それが豊ちゃんだとしたら、記憶失くしてから、泥棒にな  
ってたって事？

昭二 または、ここに居るのは豊くんじゃなくて、全くの別人っ  
てこと・・・

兼子 ええ！！！！

静 ・・・・

昭二 もしそうなら、急いで警察に届けなと！

玄関の開く音がして、勝男が帰ってくる。

間

勝男 ・・・・何？

昭二 豊君、君、本当に豊くん？

勝男 ・・・・

兼子 ・・・・豊ちゃんだよね？

間

昭二 それとも・・・大木勝男・・・

勝男 ・・・・

昭二 どうなんだい？

兼子 ・・・・豊ちゃん？

勝男 ・・・・

昭二 これ（携帯を見せて）さっき刑事に見せられたんだ。これ、  
君なのかい？それとも君は本当に豊くんなのか？本当に  
何も覚えていないのかい？

勝男 ・・・・

昭二 何で黙ってるんだよ！

間

清美

・・・豊さんじゃありません。

一同

えっ？

清美

その人、豊さんじゃないんです。

兼子

清美ちゃん、どういう事？

清美

その人は・・・

弘樹

清美の昔からの知り合いなんです。俺も知ってます、その人は豊さんじゃありません。

清美

！

兼子

あんたまで・・・どうなったんの？豊ちゃんじゃないの？

静

豊です。豊ですよ。何言ってるの、お母さんだってあんなに喜んでるじゃない。何にも知らないくせに変なこと言わないですよ！私の弟なの！豊なの！お願いだから、もう私たちから豊を奪わないで！！

兼子

静ちゃん・・・

勝男

豊じゃねーよ。俺は豊じゃねー、大木勝男だ。

昭二

やっぱり・・・僕たちを騙してたのか。

勝男

俺が騙したわけじゃねーだろう。お前らが勝手に信じてただけじゃねーか！

昭二

僕たちだけじゃなくて、静ちゃんのお母さんまで・・・恥ずかしくないのか！あんたにだって親はいるだろう？ど

勝男

んな思いで静ちゃんが看病してきたと思ってるんだ！

ふざけるな！記憶喪失なんて本気で信じてたのか？「豊ちゃん、私が誰かわかるかい？」「豊君、大丈夫だよ」「豊、

帰ってきてくれてありがとう」笑わせんな！俺はあの死にぞこないの婆さんのために、豊のフリしてやってたんだよ！

よ！

・・・

静

勝男

（静に）あんたもいい加減、思い出の家族ごっこはやめたらどうだ？

昭二　　静ちゃんは、豊くんが帰ってきて本当に喜んでたんだ！

昭二、勝男につかみかかる。勝男、それをかわし、昭二は台所に倒れ、大きな音がする。

勝男　　虫唾がはしるんだよ！お前らみてえな奴ら！

勝男、飛び出して行く。

兼子　　警察、警察！（と電話をかけようとする）

静　　やめて！・・・やめて・・・

その時ブザーが鳴る。弘樹、奥へ短い間

弘樹（声）　静さん！静さん！！  
静　　！！！！！！

静、清美、昭二、兼子、急いで奥の部屋へ。

暗転

救急車の音

^ 8 ^

別空間。5年前。

豊が電話で静と話してる。

豊　　もしもし、ああお姉ちゃん？うん、今、熱海・・・いやあ、今日はあんまり釣れないから、そろそろ帰ろうかと思ってるんだ、波高いし・・・えっ？うちに来てるの？そっか・・・じゃ、ボウズじゃ帰れないなあ。もう少し頑張ってみるか・・・大丈夫だよ、この辺は慣れてるんだから。夕飯ま

では戻るからさ、楽しみにしてて・・・じゃ。

^ 9 ^

3日後・母の告別式があった日。花火大会の夜。

喪服姿の清美、弘樹、小林が祭壇を整えたりしている。

弘樹 今日月は月が明るいな。

清美 本当だ、キレイ。

弘樹 晴江さん、月見るの好きだったんだよ。満月の時はいつも

窓から眺めてた。

清美 そうなんだ・・・晴江さん、穏やかなお顔だったね。

弘樹 ああ。

小林 自分がお世話した方が亡くなるのは辛いですね・・・

清美 小林さんは初めてですもんね。

弘樹 この仕事してたら避けて通れないですからね。でも、お陰

で僕は自分の死を意識するようになりました。一日一日を大切に、後悔しないように生きなきゃいけないと思うようになったんです。

清美 そうだね・・・

小林 ・・・・しかし、いい式でしたね。

清美 うん、お友達も沢山きててね。

弘樹 そうだな。でもさ、お経が始まった途端にあれはやばかったな。

小林 ああ、携帯。

弘樹 着信音が「笑点」だもんな。木魚とえらいリズムが合つててさ。

清美 お坊さん、肩震えてたよね。

弘樹 俺も笑いこらえるの必死だった。

小林 ひたすらポケモン探してる子もいましたしね。

弘樹 あれ、まだやってる人いるんですね。

清美 火葬場にもいるんでしょうか、ポケモン。

小林 やっぱりゴーストタイプですかね。

弘樹　なんか怖いな・・・

小林　（祭壇に飾ってある小瓶を指して）これ、何ですか？

清美　ああ、星の砂。

小林　星の砂？

清美　星の形をしてる砂で、南の島の海岸で取れるそうですよ。

小林　そんなのあるんですか。（覗き込んで）あっ！ホントだ！

星の形してる！

弘樹　それ、晴江さんが大切にしていたものみたいですよ。

清美　そういえば、静さん、棺に入れてたね。

小林　あゝ。（豊の写真を見て）これが豊さんか。本当に似てま

すね。

弘樹　ああ・・・

小林　そういえば、あの人はその後どうなったんですか？

清美　まだ捕まってないみたい。

小林　この家は被害に遭ってないんですよ。

弘樹　ええ。

小林　良かったですねえ、危ない危ない。

弘樹　小林さん、警察に言ったりしないで下さいよ。犯人を匿っ

てたって俺たちまで疑われたらバカみたいだから。

小林　分かってますよ。

玄関の開く音。

静（声）　ありがとうございます。四十九日もよろしくお願いしま  
す。

静、玄関から入ってくる。

静　ああ、どうもありがとうございます、お手伝いしてくれて。

弘樹　いえ・・・

清美　静さん、大丈夫ですか？

静　うん・・・もう覚悟はできてたし・・・ただねえ、今日の

花火は見せてあげたかったな。

弘樹 お母さん、楽しみにしてましたもんね。

静 なんだかやり残したとばかりな気がする。

清美 私も母を2年前に亡くしたので、お気持ち分かります。

小林 マルティン・ルターは、「死は人生の終末ではない。生涯の完成である。」と言っています。お母様は、ご自分の生涯を立派に完成させたんですよ。

静 ……そうですね。

弘樹 じゃあ、俺たちはこれで…

清美 ゆっくり休んでくださいね。

静 うん、ありがとう。

小林 失礼します。

小林、弘樹、清美、去る。

勝男が庭からやってくる。

勝男 ……よお…

静 ……どうしたの？

勝男 ……線香、あげさせてもらってもいいか？

静 ……うん

勝男、部屋に上がり、線香をあげる。

勝男 ……俺があんたの弟じゃないって初めから分かってたんだらう？

静 ……いつの間にか本当にそうなんじゃないか、そうであって欲しいって思っちゃったんだよね。

勝男 ……

静 豊さえいてくれたら、お母さんが喜んでくれるって思ったの…自分が楽になれるって思ったの…一人じゃ辛くて、逃げ出したかった…だから…ごめんなさい。

勝男、立ち上がり帰ろうとするが、庭で月を見上げる。  
静も立ち上がり、月を見る。

静 今日満月だね。

勝男 ああ……

静 ……お父さんが死んじゃった日も満月だった。お母さんが私たちの名前の話してくれたの。

勝男 月の海の話か。

静 うん……月がお父さんで、そこに家族三人の海がある……だから、寂しくなったらいつでも月を見なさいって……。

勝男 ……

静 名前、何だっけ？

勝男 俺の？

静 うん……下の名前。

勝男 ……勝男

静 どういう字？

勝男 勝ち負けの勝に、男。

静 勝つ男か……良い名前だね。

勝男 ……

花火が上がる。

静 あ……

静、ラジオをつけ、骨壺を持ってきて、花火が見えるところに座る。

静 この花火は、ラジオ聴きながら見るんだよ。

勝男 へえ……

アナ メッセージ花火のトップバッターは、清住町の飯田優一さんから、奥様の敦子さんへ。「母ちゃん、こんな俺と40年も連れ添ってくれてありがとう。母ちゃんはこの花火と同じくらい綺麗だよ。」

花火上がる

静 …… 勝男さん、ありがとう。お陰でお母さん、最期は豊と一緒に幸せそうだった。お母さんの中には、もう私は居なくなっちゃったから……。昔から、どうしても素直に話せなかったんだよね、お母さんと……。豊が羨ましかった……

女性 続いては、笹川町の望月静さんへ お母さんの晴江さんからメッセージです。

静 えっ？

女性 「静、豊がいなくなつて、あなたも辛かったよね。でも私を笑わせようと、毎週「寅さん」を借りて一緒に観てくれてありがとう。料理が苦手なあなたが、私の為に毎日毎日食事を作ってくれて、ありがとう。面と向かって言えなくてごめんね。今のうちにこれだけは伝えておきたくて……。静、私の娘に生まれてくれて、ありがとう。母。」

花火上がる。

女性 こちらのメッセージは、一年前に申し込みがあったんですよ！ 続いては、栄町の北村理恵さんから、マコちゃんへ「お誕生日おめでとう！ これからもずっとずっと一緒にだよ……」

静、ラジオを切り、骨壺を見つめて。

静 お母さん……

骨壺を抱きしめて泣く静。

静 お母さん……お母さん……

その様子を見ていた勝男、おもむろに豊の眼鏡をかける。

勝男 ……お姉ちゃん……

静 ……(驚いて勝男を見る)

勝男 ……お母さん、僕の手握って、静をよろしくって何度も

何度も言ってたよ。あの子は一人で頑張りすぎちゃうから  
って。

静 ……

勝男 お父さんもお母さんも僕も……みんな月からお姉ちゃん

の事見てるからさ……幸せになれよ。

静 ……ありがとう。

花火と月明りが二人を照らしながら暗転

^ 10 ^

翌日の朝 居間に兼子が座っている。太郎が来る。

太郎 ああ、いたいた。なんだよ、お隣さんにお線香上げに行く

っていったつきり帰って来ねーと思ったら……

兼子 静ちゃんが、高林堂にお茶菓子注文したの取って来るから

待ってって、鍵も持たずに飛び出して行っちゃったのよ。

すぐ戻るって言ってただけどさ。誰もいないから、勝手に

に出ていけなくて……

太郎 そりゃそうだな。……昨日のメッセージ花火、静ちゃん

聴いてたって？

兼子 うん、びっくりしたって。

太郎 だよなあ。粹な事してくれるぜ。

兼子 晴江さんらしいね。

太郎 ああ……

問

太郎 ……母ちゃん……

兼子 ん？

太郎 あのさ……今さらだけどよ……

兼子 ？？

太郎 ……悪かったな……

兼子 何が？

太郎 ……親父の介護。

兼子 ……

太郎 ぜーんぶお前に押し付けちまってさ。

兼子 ……

太郎 俺、あの頑固もんの親父が、壊れてくの見たくなくて……

兼子 面倒みてくれて……ありがとな

太郎 ……本当に今さらだよ。

兼子 元気なうちに言わねーとな。

太郎 ……

兼子 まあ、俺がボケた時もよろしく頼むよ。

太郎 ああ、やだねえ、またエロじじいの介護か……

太郎 じゃ、戻ってるからよ、静ちゃん帰ってきたらすぐ配達行くぞ。

兼子 ……はいよ。

太郎、去る。兼子、ちよつとした幸せをかみしめている。

そこに玄関から昭二がやってくる。

昭二 おはようございます。

兼子 ああ、昭二君、おはよう。あ、ちょうど良かった。静ちゃん帰ってくるまで留守番してて。私、店番しなきゃならないから。

昭二 ああ、はい。

兼子 じゃ、頼んだよ。

兼子、去る。

昭二、居間にあがってお線香をあげる。静が急いで帰ってくる。

静 兼子さん、ごめんなさい！！高林堂のご主人につかまっちゃって。あれ？

昭二 ああ、店番だって。

静 あ、そっか。

昭二 勝手に上がってごめん。

静 ううん、昭二君、お菓子食べる？麦茶いれるから、座って！

昭二 うん、ありがとう。

静、台所へ。

昭二 引っ越し、いつになったの？

静（声） 来週の金曜日。

昭二 延期できて良かったね。

静（声） うん。

昭二 荷造り手伝うよ。

静（声） ありがとう。でもほとんど持っていく物ないんだ。私一人だし。引っ越し屋さんをお願いすればあつという間。

昭二 そうか・・・

静、麦茶とお茶菓子を持って出てきて

静 色んな思い出が詰まってる家だから、ちよつと寂しいけどね。

昭二 そうだよな。

静 （麦茶を出し）どうぞ

昭二 ありがとう（飲む）。お母さんのベッドとか車いすの引き取りは、明日の午前中でいい？

静 うん・・・（改まって）昭二君。

昭二 （期待して）はい。

静 本来にありがとう。

昭二 仕事ですから。

間

昭二 ……(何か言いたいが言えず、出された煎餅をかじる)

静 ……

昭二 (麦茶を飲みほして)……静ちゃん

静 ん？

昭二 あの…

静 ？

昭二 ……あのさ…

静 何？

昭二 (言えなくて)……麦茶お代わりくれる？

静 うん。

静、台所へ。昭二、おもむろに西城秀樹のヤングマンを歌いだす。

台所から出てきて、ポカーンとみている静。

昭二 練習したんだけど、どう？

静 ああ、うん、似てる。

昭二 だから、カラオケ行かない？いや、あのボックスじゃなくていいんだよ、ほらカラオケスナックみたいな、みんなで歌うところで……発散できるしさ。あの、来週の日曜とか、もし予定がなかったら……あ、引越した後で大変か。だったら次の日曜でもいいし、日曜じゃなくてもいつでも……

静 行こう。

昭二 えっ?!!

静 行こう、来週の日曜日、カラオケボックス。

昭二 ……そう。

静 うん。

昭二　じゃあ、また電話する。

静　うん。

昭二　じゃあ、ごちそうさま。

昭二、去ろうとするが帰ってきて

昭二　え？ボックス？

静　・・・うん。

昭二　・・・ああ、そう、うん、そうか、よし！じゃあね。

静　じゃあね。

昭二、去る。

静、祭壇の前に座る。

△ 11 △

別空間で勝男が電話している。(以下、方言で)

留守電　はい、大木でございます。お電話ありがとうございます。

あの・・・ただ今、出かけとりますので、・・・ピーツと  
いう音が鳴ったら、メッセージを残して下さい。・・・  
あれ？これでいいのかし(ピー)

勝男　・・・母ちゃん・・・俺、勝男・・・元気か？・・・

あのさ・・・俺、今度富山に帰るわ。・・・東京から、な  
んか欲しいものあったら言えよ・・・また電話するちや。  
(電話を切る)

月を見上げる勝男と静。  
ゆっくりと暗転。

┌ 幕 ─┘